

## [当日アンケートから●映画の感想]

—————@谷中コミュニティセンター+谷根千「記憶の蔵」+JAZZ喫茶「映画館」

- いまさらながら国の原子力政策とは何だったのか。と無常観を覚えました。長い間原子力は怖いと思いながら、都会の暮らしの中でそれを享受してきた自分があることにです。しらしむべからず、寄らしむべしの政治に反発していたのにです。あきらめてはいけないと思いつつ何をしてよいのか惑うばかりです。
- そもそも自宅に帰るのに防護服を着なくてはならないという理不尽。編集がとても大変だったでしょう。ご苦労様でした。政治家、電力会社の人々、原発再稼動を熱望する原発自治体の方々はこの作品を見ていますか。都市の人々が電気を使うために地方の人に負荷を与える。現代のわれわれが使う電気のために未来の人々に負荷を与える。二つの意味で原発は論理的に正しくないことを改めて思いました。
- 一時帰宅された方があの光景を目の当たりにされたときの気持ちを思うと胸が詰まります。自分がいかに避難された方々の気持ちをわかっていなかったか痛感しました。そしてこれからもっと避難された方がたの気持ちになって行動していこうと強く思いました。
- エネルギー消費者である首都圏の人間が本当に学ばなければならないことを、そしてとらねばならない行動を考えさせられた。この事故を無駄にしてはならないと本当に思いました。
- 生々しい現実でした。TV等でみる被災地はどこか他人事のような気がしていましたが、もしも自分がこの立場だったらと思うとやりきれない。もっと怒りがこみ上げてきました。原発のことに無関心だった自分でしたが、客観的であってはいけないと思いました。
- 劇場へ行けなかったので今回鑑賞することにした。子供はいるし、話をする人もいて、始めは少しとまどった。そして、気づかされました。こんな環境でフタバ町の人々は生きなくてはならないんだという現実に、東京都民として、深く心が痛みました。
- 浜通りのこの状態を今後未来永劫風化させないためにも、撮影や上映を続けてください。
- 町長の最後の言葉が印象深く残った。私の故郷の近くには原発があるが気づかない人が多いことに脱力する。自分が事故にあわないという町の人達の気持ちも分かる。原発を受け入れたことも事実。町が疲弊しても原発に頼って財政悪化してもやめられないのは、一部の甘い汁をすっている人が、ものごとの決定システムの中心にいるから。お金のあるひとを偉い人として政治の中枢に送り込んできた、自分達のこれまでのありかたを振り返る時にきていると思う。原発のある地方では電力会社社員は本当に他の人を下に見ているそうです。
- 故郷に帰りたけれど、帰れないことを分かっているとおっしゃっていた高齢の方の話が印象に残った。帰りたいたいという願いが辛い。フタバの犠牲の上に成り立つ東京の生活と経済に疑問を持った。
- 今までの報道より現実感が全く違い、大変さが心に来ました。
- 一時帰宅の映像に息を呑んだ。予め本を読んでから来たが、映像の印象はまた強烈だった。監督が言われたように、まるで自分が被災した状態の一端が経験できた気がします。
- 本当に胸がいっぱいに痛くなりました。フタバの人達のことを考えると・・・。このような機会をいただきありがとうございます。そして撮影をした監督ありがとうございます。

●重いけれど多くの方がしるべきものと思う。ラジオで監督が語られていた通り、NEWS映像とは違う長期取材のドキュメンタリーの力を感じました。E T V ( N H K ) のドキュメントは全く違うまなざしを感じました。日常というのはこのような撮り方をするものだという事に気づきました。

●震災、原発事故当事者の方々には想像を絶するご苦労があると思いますがそれ以外のひとでも辛くなかったひとはいないと思います。先月石巻に行く機会があり、今日またこの映画を見て私自身の気持ちが整理できてきたか・・・と感じています。

●去年3.11の直後から何か私にできることは無いかと思い、自主バザーを開き、4月中すぎから双葉町から騎西高校に避難していらした方々の求めているものを何度か直接に運びお届けしてきました。1年8ヶ月が過ぎましたが、先の見えない巨大なストレスと空虚感を抱えておられる皆さんのこと、もっと伝えていかないと。監督のように密着取材ドキュメントを撮ってくださる方がいらっしやると友人に聞いて、渋谷へも見に行きましたが、再度観てまた新たな発見があるはずと思い参りました。

●フタバ町の方のおかげで東京は潤っていることを強く思い申し訳ない思いでいっぱいになっています。3.11から1年8ヶ月たち、東京にいるものは何事もなくのほほんとお気楽に暮らしている。でも、絶対忘れてならないし、考えていかななくてはならないし、思っていかななくてはならない。何とかしなくてはならないと、今日改めて思いました。

●母を無くした方の話を聞いたときに涙がでました。また、学校の友人に骨になった手の話を聞きましたが、今回実際に映像でみるととても恐ろしくなりました。もっといろんな方に被災地のことを知ってほしいです。

●リアリズムが重く重くのしかかりました。この方達のストレス、静かに深く沈む怒りをもっともっと長く撮り続けてください。

●朝起きて、飯を食べて家にいて、トイレ入って寝る。そこに雇用が生まれないのが根本の問題なんだと思う。世界は地域が大きくなることで不平等になった。

●ニュースとして入ってきたことしか知らなかったフタバ町民の避難生活を事実として知ることが出来たことは観てよかったと思えます。

## [当日アンケートから ● トークそのほかの感想]

——@谷中コミュニティセンター

- 監督、ふたば町のかたの話とてもよかった。
- 被災した当事者の生の声に接することができ、心を動かされた。
- 避難されている方々の直接のお話、私の肌にしみこんでくる感じがしました。
- フタバ町の方が話をしたことが、とても現実的で厳しいものだった。私達の国ってすんでいる地域によって本当に話が違ふことがよく分かった。もっと真正面から私達が立ち向かわなくてはいけないと思った。
- あれだけのことがあって何で日本人は懲りないのでしょうか？

- 直に町民の方のお話をきけて、その方たちのご苦勞がよく感じ取れました。特に風評被害の大変さもおどろいた。省エネは自分達にできることなので努力したいと思います。
- 関東エリアの方にも本当にどんどんこの映画を見せてください。(映画のコンセプトに共感いたします)
- 会場から意見を聞く時間をもう少しとればよかったのでは。東京は地方の人の人の集まりという事をもういちど考えたい。東京って何だろう。私も東京に出稼ぎに来ているのかもしれない。
- 今回の選挙の意味が、漠としていたものがはっきりしたようでよかった。
- フタバ町の声が、国、東電に無視されているだけでなく、福島県とも齟齬があると北原さんから伺いショックでした。
- 反原発 = 人間尊重が伝わりました。チェルノブイリのソ連は非人道的、後進国と思っていましたが、今の日本は何十年前のソ連のそれ以下だと思えます。
- 私も昨年から一日たりとも福島を忘れないと思っています。と、同時にこれから知らん顔するのは本当に加害者になってしまうと思い、模索しております。
- 来週東大でも上映会があるようでそちらには監督のトークがあるのは知っていたのですが、今日監督の話が聞けるとは思っていませんでした。のでラッキーでした。政府、東電にも声が届かないというお話でした。お二人のような方の話を聞くことができ、せめて国民の一人として受け止めることができたらと思います。
- 監督のお話の中で、放射能の危険を肌で感じる事のない西日本の人達に広げてほしいということは私も常々思っています。避難をされている双葉町の方々の話を直に聞くことができよく分かりました。仮払金のこと精神的保証金のことなど、国+東電の無情な現状も聞いてよかったです。ご意見の方の風評被害、省エネなど実践すべきことが参考になりました。

---

@谷根千「記憶の蔵」

- 実体験されたお二人のお話は3.11を思い起こさせるものでした。「こんな苦しみは私達だけでもうたくさんです」と話されておりました。私はいいけれど、子供達にはこんな出来事がないようにと願います。原発はあってはならないものと本当に思います。声を上げ続けていこうと思います。
- 座席や寒さへの配慮があってよかったです。様々な支援があることを知りました。また参加したいです。
- 地震があった日のことが東京とは違いが多すぎて驚くことばかりだった。原発事故で大変な思いをした方々がこんなにも強く話して下さって、まだ原発を始めようとしている政治の人は何を考えているのかと強く思いました。

---

@JAZZ喫茶「映画館」

- 監督さんの熱意が伝わりました。

- 双方向なのが良い。
- 会場がすばらしい。
- 自業自得はタブー。理解が足りないのか分からないが、施設が原発マネーで建っている写真を見て、私は一瞬でも自業自得という言葉が消すように努力している自分を客観視していた。（私は原爆を肯定する人を責めることはできない）私は脱原発 反原発です。
- 上映会の形だと内輪的な印象が強く、興味ある人にしか伝わらないもどかしさがあります。でも、地道に行われているということはあとあとじわじわを利いてくるでしょうから、ぜひ続けていってください。
- 全員まとめた座談会に加えて隣席の人と自由に話す時間があってもよかったと思います。皆話したいし聞きたいのだと思う。
- みんなの色々な意見が聞けて面白かった。映画って今後はこういう形で見えるものになるかもしれませんね。
- 忙しい一日だったと思います。スタッフの皆様の熱意に頭が下がります。細く長く頑張ってください。